

みずほCustomer Desk Report 2019/11/08号 (As of 2019/11/07)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	108.94 AUD/USD
TKY 9:00AM	108.92	1.1070	120.56	1.2856	0.6877
SYD-NY High	109.49	1.1091	121.11	1.2878	0.6913
SYD-NY Low	108.65	1.1036	120.14	1.2794	0.6862
NY 5:00 PM	109.29	1.1050	120.80	1.2814	0.6899
NY DOW	27,674.80	182.24	日本2年債	-0.19	0.00bp
NASDAQ	8,434.52	23.89	日本10年債	-0.09	0.00bp
S&P	3,085.18	8.40	米国2年債	1.6784	6.68bp
日経平均	23,330.32	26.50	米国5年債	1.7410	11.07bp
TOPIX	1,698.13	3.68	米国10年債	1.9286	9.94bp
シカゴ日経先物	23,550.00	235	独10年債	-0.2355	10.00bp
ロンドンFT	7,406.41	9.76	英10年債	0.7890	7.70bp
DAX	13,289.46	109.57	豪10年債	1.2070	▲4.00bp
ハンセン指数	27,847.23	158.59	USDJPY 1M Vol	5.08	0.04%
上海総合	2,978.71	0.12	USDJPY 3M Vol	5.83	0.00%
NY金	1,466.40	▲26.70	USDJPY 6M Vol	6.30	0.00%
WTI	57.15	0.80	USDJPY 1M 25RR	-0.63	Yen Call Over
CRB指数	180.98	0.47	EURJPY 3M Vol	6.46	0.09%
ドルインデックス	98.13	0.18	EURJPY 6M Vol	6.78	0.05%

【昨日の指標等】

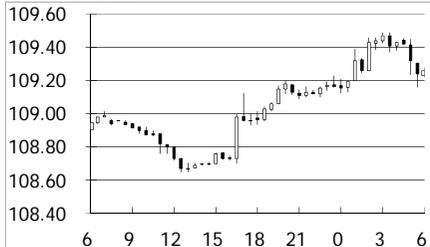
Date	Time	Event	結果	予想
11月7日	09:30	豪 貿易収支	9月 A\$7180m	A\$5050m
	16:00	独 鉱工業生産(季調済/前月比)	9月 -0.6%	-0.4%
	17:30	独 マークイット建設業PMI	10月 51.5	-
	22:30	米 新規失業保険申請件数	2-Nov 211k	215k

【本日の予定】

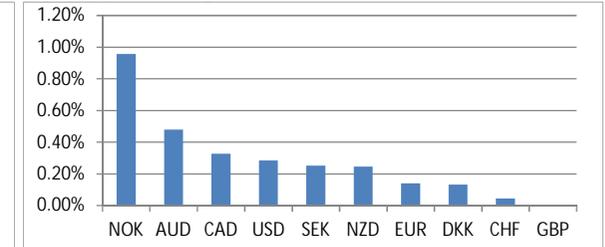
Date	Time	Event	予想	前回
11月8日	09:10	米 ポスティック・アトランタ連銀総裁 講演	-	-
		中 輸出(前年比)	10月 -3.9%	-3.2%
		中 輸入(前年比)	10月 -7.8%	-8.5%
		中 貿易収支	10月 \$40.10b	\$39.65b
11月9日	00:00	米 ミシガン大学消費者マインド・速報	11月 95.5	95.5
	10:00	米 ウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁 講演	-	-
	10:30	中 CPI(前年比)	10月 3.4%	3.0%
	10:30	中 PPI(前年比)	10月 -1.5%	-1.2%

東京	東京時間のドル円は108.92レベルでオープン。米中貿易協議において再び警戒ムードが熾り、リスクオフの地合いにドル円は108.65まで下落。その後は軟調推移していた日経株がプラスに転じるとともにドル円もやや反発し、108.73レベルで海外へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、108.73レベルでオープン。朝方、中国商務省が米と追加関税の段階的撤廃で合意との報道で109円台を回復すると、さらに一部報道で「中国が米国産鶏肉の輸入制限措置の撤回を検討中」と流れると109.20円まで上昇。その後もみ合せて109.12レベルでNYに渡った。ボトドルは、1.2845レベルでオープン。立ち上がりは堅調で1.2878まで買われる場面も。正午に英中銀が政策を据え置いたものの、政策金利で0.25%の利下げを主張する委員が2名いたことがト派と捉えられボトドルは下落。一時1.2805まで売られ1.2824レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 神田)
ニューヨーク	中国が米国に対する関税の段階的撤廃で合意との報道を受け、海外市場で109.20まで戻したドル円は、109.12レベルでNYオープン。朝方は米新規失業保険申請件数が予想とほぼ一致したことから、ドル円の反応は限定的となる。その後は株式市場が史上最高値を更新し、米金利も上昇する中、ドル買いが継続し、ドル円は109.49まで上昇する。しかしこのレベルでは一旦売り意欲は強く、午後に入り109.37まで下押しする。その後また109.45まで買い戻される局面もあったものの、通信社が「米国側がまだ関税撤回に対する最終的な決定に至っていない」と報じたことから、109.16まで反落し、109.29レベルでクロスした。一方、欧州委員会がユーロ圏の製造とインフレ見通しを下方修正したものの、これを受けてのユーロドルの反応は限定的となるが、ややドル売りが優勢となったことから1.1091まで戻し、1.1076レベルでNYオープン。朝方は、1.1082まで戻すものの、米中通商協議に対する期待で米金利高を受けたドル買いに1.1036まで反落する。午後は、前述の通信社のニュースを受けたドル売りに1.1054まで戻し、1.1050レベルでクロスした。(NY井上)

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 本格的なリスクオンは遠いか

今週はブレクジットや米中通商問題の進捗への期待感から、米株価は史上最高値を更新、日経平均株価についても年初来高値を更新する等マーケットのリスクセンチメントは改善しており、現在ドル円は109円前半まで底堅く推移している。米中通商協議においては、昨日「中国商務省は、米中が通商協議のフェーズ1で合意できれば、双方が同規模で既存の関税撤廃を行うことを合意」、「中国は米国からの鶏肉輸入制限を取り除くこと検討」等と報じられており、米国からは「対中関税撤廃について米政権内では強い反対がある」との報道も見られたものの、引き続き市場では楽観的な向きが強まっている状態である。これを受けてドル円は8/1高値である109.32を上抜け109.49をつけており、ドル円は底堅い展開となっている。

年末までのドル円相場を展望すると、12月に向けて米中の一部合意署名がなされ、12月15日に予定されている関税が延期、また既存の関税が撤廃となれば、ドル円は年内に110円を上抜けする可能性もあると考えている。加えて、毎年米国のクリスマス前にはドル需給が締めやすくなり、米系企業の海外利益の本国回帰観測による季節的なドル高アンマリーが意識されやすくなることもドル高のサポート要因となろう。ただし、米中通商協議に関して、部分合意で目先の衝突を回避したとしても、残された課題に対する不透明感は払拭されず、いつトランプ米大統領の掌返しがあるか分からない状況下では本格的なリスクオンムードにはなりにくいのではないだろうか考える。110円を乗せる場面があっても滞空時間は短いものと考えており、その水準ではドル売りヘッジを推奨したい。(大谷)

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ブル	ベア
岡本	小野	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷鋪